

近畿中国局フォレスターNEWS

主伐・再造林に向けた新たなシカ捕獲手法についての現地検討会を開催（岡山県）



岡山森林管理署長挨拶



受託者による首用くり罠の説明

複数県を跨いだ国有林フォレスター活動として、平成30年11月14日（水曜日）、津川山国有林（津山市）及び市内の会議室において、岡山森林管理署、鳥取森林管理署、兵庫森林管理署合同による「シカ被害対策」をテーマとした現地検討会を開催しました。

当日は、鳥取県、岡山県、津山市、新見市、近隣の森林組合、林業事業者等の担当者32名（うち民有林関係者16名）が参加しました。

午前中は会議室において、岡山森林管理署長から「今日の現地検討会でご説明したことが、一つでも地域において活用される方向性が見出せるなど有意義な検討会となるようお願いします。」との開会挨拶の後、岡山森林管理署担当者から、森林被害の状況、近畿中国森林管理局におけるシカ捕獲手法等の説明を行いました。

午後からは、シカ捕獲事業を行っている津川山国有林に場所を移し、捕獲事業の受託者から、①ICT（情報通信技術）を利用した罠の設置場所や取扱いの説明、足跡等から判断する獣道の見分け方、③雌シカの捕獲に有効とされる首用くり罠の取扱い等、④※小林式誘引捕獲の取扱いについて説明を行いました。

参加者からは、首用くり罠の設置やヘイクューブ（シカ捕獲用のえさ）、の交換時期や撒（まき）き方などの質問がありました。

最後に、鳥取署森林技術指導官から「国有林において捕獲効率が高い傾向にある小林式誘引捕獲について、是非とも各地域で試していただき、成果も含め情報発信をお願いします。」との言葉で締めくくり閉会しました。

※小林式とはワナを設置し、その周囲に石を置き、石の周りにえさをまき、シカを誘引して捕獲する方法です。

森林共同施業団地における森林整備状況についての現地検討会を開催（三重県）

平成30年11月21日（水曜日）、三重県いなべ市の国有林及び岐阜県海津市の民有林において、三重森林管理署と悟入谷・古野裏山地域森林共同施業団地の関係者21名（うち民有林関係者15名）が参加し、団地内における森林整備状況等を確認するための現地検討会を開催しました。

署長からは、「基幹となる林道により効率的な木材搬出、森林整備等について、お互いに協力出来るところから取り組み、現地において多様な意見を聞き、調整の場としたい」旨の開会挨拶がありました。

現地検討会では、国有林内に設けた木材集積場（中間土場）の使用状況、駒野・奥条入会財産区及び国有林の事業実施箇所など5箇所について現地検討を行いました。

参加者からの意見・質疑等では、林道の修繕において、砂利等の修繕では大雨時に洗掘される可能性もあり、長期にわたり林道を関係者で使用する為、例えば鉄鋼スラグ等による簡易で安価な修繕も検討してはなどの意見が出されました。

今後、署等において鉄鋼スラグを用いた修繕でも大型トラックの通行に支障がないか、コストは安価になるかなどの検討を行い、次回の連絡調整会議までには、関係者へ回答できるよう調整していきます。

また、継続的な森林整備、木材の安定供給のため、引き続き森林共同施業団地の区域拡張の取組を行うこととしています。



中間土場で木材搬出の説明



国有林の新植地でシカ防護柵とコンテナ苗の説明

林業の低コスト化（早生樹の導入など）についての現地検討会を実施（福井県）



早生樹（センダン）の黒河山2号地で
成育状況を説明



質疑応答の様子

複数県を跨いだ国有林フォレスター活動として、平成30年12月12日（水曜日）、福井森林管理署管内の黒河山国有林（敦賀市）及び敦賀市内の会議室において、石川森林管理署、福井森林管理署、滋賀森林管理署、京都大阪森林管理事務所合同による「林業の低コスト化（早生樹の導入、地上レーザー計測の活用）」をテーマとした現地検討会を開催しました。

当日は、石川県、福井県、滋賀県の林務担当者、研究機関、森林組合のほか、早生樹の共同試験を行っている京都府立大学の糟谷助教と学生の方々にも参加いただくなど、42名（うち民有林関係者21名）が参加しました。

午前中は、黒河山国有林にある早生樹（センダン）の試験地2箇所において、積雪量や切戻しの効果、頂芽の残し方等について確認した後、林業分野におけるICTの活用に向けた取組の一環として期待されている、地上型3次元レーザースキャナシステム（以下「地上レーザーシステム」という）のデモンストレーションを実施しました。

午後からは、室内会議室に場所を移し、早生樹試験の状況の考察や地上レーザーシステムの活用例等の紹介を行いました。

参加者からは、多雪地における早生樹導入の可否、地上レーザーシステムと従来の立木調査との誤差などについて質問があり、活発な意見交換が行われました。

今後も引き続き、民有林と国有林が連携した技術や情報の提供を行うなど、林業の低コスト化に向けた取組を展開していきたいと考えています。

架線集材による一貫作業（伐木集造材と新植）の普及についての現地検討会（山口県）

複数県を跨いだ国有林フォレスター活動として、平成30年12月19日（水曜日）、島根森林管理署、広島北部森林管理署、広島森林管理署、山口森林管理事務所合同による「低コストに係る技術の確立と普及における現地検討会」を滑山国有林（山口市）において開催しました。

当日は、島根県、広島県、山口県の林務担当者等43名（うち民有林関係者14名）が参加しました。

山口所の担当職員から、近年は作業道を活用した高性能林業機械による集材が主体となっていますが、今後、地理的条件などで架線による集材も検討しなければならないことも想定されることから、実際の作業状況や山口所での成果などについて説明しました。参加者の中には架線集材を見るのが初めてという方もあり、木材の搬出や架線を使って伐採跡地にコンテナ苗を運搬する様子を見ていただきました。

意見交換では、各県の担当者から架線の架設に係る期間についての質問や、架線集材による一括発注を検討した理由などについて活発な意見が出され、有意義な意見交換となりました。

今後も現地検討会などの機会を通じて、民有林、国有林が連携し技術や情報の提供を行うなど同じ地域課題に取組み、解決していければと考えています。



架線による木材搬出の様子



コンテナ苗運搬の様子

林野庁

近畿中国森林管理局

技術普及課



国民の森林・国有林

TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055

URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年の4月からは、新たな森林管理システムや森林環境譲与税の具体的な取組が始まります。これにより、国有林のフォレスター等の役割はますます重要となってくると思いますので、職員のスキルアップとなるよう最新情報の提供などに取り組みます。